

「構造改革」は流行語で終わるのか？
白けムードの中で小泉政権は続く

去る9月20日、自民党総裁選が行われ、下馬評どおり藤井、亀井、高村の3氏を抑えて圧勝した。小泉首相は11月の総選挙に向けて再改造内閣を率いる。総裁選に至るまでに、小泉体制反対の意思表示として閣部出身の野中幹事長が引退を表明するというハプニングもあったが、焼け石に水。小泉体制はまだまだ続きそうだ。

総裁選は国民による選挙ではなかったものの、民意である「他に適任者がいないから」という白けムード、無関心ムードは如実に反映されている。自民党へのアンチテーゼで一時は国民の心を捉えかけた小沢一郎、菅直人両氏もパッとせず、民主党が掲げた「マニフェスト」という名の公約はタイミングが不可解で内容も子供じみている。11月の解散総選挙後に日本の政治の方向性がある程度は見えてくるだろうが、当分、劇的な改善や改造は進みそうにない。「構造改革」だけが新機軸だったはずが、いっこうにそれが進まない小泉氏の時代が続くんだもの。

生き抜け



未来で会うために…

いまだききの歴史

一番新しい日本の一ページ

定員オーバー!

刑務所は罰を受けるだけの施設じゃない
優れた更生施設としての環境を求め!!

保釈金制度で服役者も減らす

と、いつのもひとつの考え方が…



山科にある京都刑務所の収容者が8月中旬に過去最多の1820人を記録した。これは定員の123%で、現在は過密状態。3年前、定員を超えて以来、増加が続いていた。刑務所内には木工や金属加工の作業棟があるが、収容者の増加に伴い、作業所を増設し続けても追いつかない状況。また、狭い作業所でできる手仕事も不況により減少傾向で、このままでは受刑者の作業確保も難しくなりそうだ。

かたや、京都拘留所では男性被告人がHIV感染を理由に「食器は本人専用を用意し、食後は熱湯消毒」「入浴は一番最後」「HIV用と書かれた洗面器を使用」という差別的待遇を受けて問題となった。

刑務所は犯罪者が罰を受けることだけが目的ではない。それよりも大切なのは、服役者を社会に貢献できる人間として社会復帰させることである。劣悪な環境は人の心をゆがめる。後先考えずにコンビニを襲撃したり、酒を飲んで人を傷つけたりする凶悪犯罪急増に頭を抱える京都だが、だからこそ犯罪を防ぐと同時に、更生施設として立派に機能するよう刑務所を整備し、犯罪者を減らして欲しいものだ。

譲り合いの精神

産廃施設は必要!! ただし他所で…では
いつまでたっても環境改善は夢物語

滋賀県志賀町に産業廃棄物焼却施設を誘致しようとした町長が住民投票により解職された。一方、甲賀町と滋賀県の間で産廃施設建設に関する調印が行われ、今後、受け入れ態勢の準備が進む。外部の人間とすれば、「産廃処理施設は大賛成」と簡単に言えるだろうが、仮に自分の家の隣に処理施設が建設されるとすれば、やはり別問題。自己犠牲の精神で受け入れるか、何らかの見返りと引き換えに受け入れるしかない。ゴミ処理だけを見れば、やっぱり誰かが泣かねばならないのが現状。だからこそ、「出てきたゴミをどこでどう処理をするか?」と同時に、「ゴミを出さない」「処理に困るものをつくらない」動きが絶対不可欠なのだ。

ちなみに、来る11月29日、キタオオジタウン内の京都市北文化会館で「環境フォーラムきょうと」が開催され、ゴミ処理に関する5分間スピーチやリサイクルをテーマにした演劇が行われる。これを機に、ゴミ処理をもっと身近に感じてもらえればうれい。



「飛び込むな!!」
それより効くかも
この看板



文◎大塚 祐希

京都で活動するライター集団・大塚祐希事務所CEO。昨年のイスラエル滞在以来、異文化を紹介するTEXTREAM PROJECTを始動。20カ国に及ぶ人々とネットワークを構築し、ボーダレスな活躍を目指す。
HP◎<http://www1.ocn.ne.jp/~tsukagawa/>



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キョトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、半日の公開。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP◎<http://www.d1.dion.ne.jp/~ryoguchi>